

幕

からころと絞首台の鐘が鳴ります。即席の絞首台の鐘の代わりに使われたのは、主人を失った酒場のドアベルでした。

この村は閉じています。
殺人からの裁判は、村の衰退に拍車をかけ、
まもなく本当に住民は絶えるでしょう。
そして、かつて『店主／アルヴァン』が望んだものは永遠に失われます。

本当は狩るべき『オオカミ』なんていませんでした。
ここにいたのは、人に人と呼んでもらえなかったもの。

……俺の疑心暗鬼があぶりだしたのは、俺の中の『狼』だった。

それでも、皆はたどり着いた。
奇跡みたいな可能性を、奇跡でないものでつかみ取った。

ずっと繰り返して、ずっと考えて、それでも俺はたどりつけなかった。

ありがとう。

誰一人疑いに後ろ指をさされず、誰一人吊るし殺されることのない。
安らかな終わりの景色を見られた。

+++++

エンディングA：『そこにオオカミがいた』